



令和4年9月28日

研究主題 「学ぶこと・考えることを楽しむ」

～自分の考えをもち広げ深める力の育成：「考えの形成」を促す指導法の工夫～

9月28日、今年度3回目の校内研究が行われた。今年度3回目の校内研究は、「国語科」での実践となった。2年1組では、大塚隆夫教諭が『読んで考えたことを話そう「どうぶつ園のじゅうい」』の単元を、5年1組では、松川佳史教諭が『季節の言葉』の単元で授業を行った。



まず2年1組では、前時までの振り返りを行い、個々が一番強く心に残ったことなどを確認した。それを作者である植田さんに伝えようという趣旨で、手紙を書こうという展開であった。どんな要素で書くか（5つの要素）を確認してから手紙の下書きを行った。

協議会では、手紙がよかったのか、感想文がよかったのか、どちらがよかったか。子どもに書きたい意思があったのか。などについて話し合いが行われた。



5年1組では、秋の季語をいれて、自分の思い俳句に表し作るという授業であった。前時までに自分の思いの5音・7音を作っており、本時で、秋の季語をもちいた5音分をパソコンで検索し、作成した。松川教諭の「使わなきゃ 新しい機器 天高し」から作者のどういう意図が詠み

取れるかを聞いた後に、児童間で作品を詠み合いどう考えているかをノートに書いていた。

研究協議会では、明星大学教授である白石範孝先生を講師としてお招きし、授業と協議会の指導・講評をいただいた。授業を通して、教材を教える授業ではなくて、教材を教える授業展開を考えること。それには、用語の習得と活用・方法の習得と活用・原理原則の習得と活用を意識しながら授業を作り、展開していくことが大切であるということをお話いただいた。



今回ご指導いただいたことを意識しながら、国語科の授業だけでなく、他教科にも生かして、文教大学付属小学校全体で授業の質を高めていきたい。